

パイ

2021年12月発行
VOL.3 冬号



【表紙】NPO法人古館まちづくりの会

紫波町古館地区のNPO法人古館まちづくりの会では、若い会員のやりたいことを取り入れた活動がまちづくりにつながっています。写真は地域での防災学習の様子で、防災ポータルサイトの開設等普段からの災害への備えにも取り組んでいます。詳細は特集記事をご覧ください。

【特集】つながる・地域の元気「県央編」 2-5

NPO法人古館まちづくりの会/NPO法人虹の架け橋/滝沢市 元村東自治会/いわてレインボーマーチ	
岩手県からのお知らせ	6
岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターからのお知らせ	7
NPO活動交流センターからのお知らせ	8
新しい生活様式とNPO活動	9
県活登録団体紹介	10
助成金情報	11
あなたのまちの市民活動支援のみなもと	
NPO法人いわて連携復興センター	12

NPO法人古館まちづくりの会

若者がやりたいことを形に
コロナ禍でも止まらないまちづくり



高齢者等を対象としたスマホ講座

司さん(オンラインで取材)をはじめとする、古館まちづくりの会の皆さんにお話しをお聞きした。

地域の声を拾い若者も活躍するまちづくりへ

古館地区の人口はここ20年間横ばいだ。しかし、世帯数は増えている。核家族化と高齢化が進んでおり、転居してくる方も多く、近所のコミュニケーションも希薄な状態が続いていた。住みよい古館地区にするため、地域の声を拾った活動を心がけている。

つながる・地域の元気「県央編」

いわてのNPO・ボランティア情報誌PIN冬号は県央地域から4団体の活動をご紹介します。紫波町のNPO法人古館まちづくりの会、滝沢市の元村東自治会、雫石町のNPO法人虹の架け橋、盛岡市のいわてレインボーマーチです。最終面では北上市のNPO法人いわて連携復興センターをご紹介します。



紫波町にある古館地区は、盛岡市や花巻市のベッドタウンとして世帯数が増加し、令和3年10月末現在では、紫波町のおよそ4分の1を占める9千人程が生活している。NPO法人古館まちづくりの会は、古館地区のまちづくりや地域団体の支援等を行うNPO法人として令和元年の6月に設立。理事長の橋浦栄一さん、理事兼事務局長の浅石裕

住民や地域の団体からの困りごとを受け付ける「ミニ相談窓口」は、地域のセーフティネットとして解決の方法と一緒に探る。団体の支援を行うときは、活動の棚卸しや連携支援、事務局のサポートを担っている。

また、若い世代の会員を中心に地域活性化事業にも取り組んでいる。浅石さんは「若者がやりたい活動が、まちをつくらせている。」と話す。若者が地域に参加し楽しく活



古館まちづくりの会のみなさん
(左から二人目：橋浦理事長)

動できる環境ができているという。今年10月には若者チームが企画したオンラインでの利き酒大会を実施。当日はビデオ会議で50名程が参加し盛り上がった。高齢者等を対象としたスマホ講座も好評で、メッセージアプリLINEを使った見守り事業「あんしん古館ライン」も9月から開始した。コロナ禍の活動では特に柔軟な発想が生かされているそうだ。

令和2年1月から運営を開始した「古館地区防災ポータルサイト」も若い世代の会員が中心となり作成された。緊急時には情報発信に活用されるほか、消火栓、防火水槽や過去の災害の様子を記したマップの公開、防災に関する情報や動画の掲載等を行っている。



オンラインでの利き酒大会

新しく古館地区に来る住人の方や子どもの防災学習に役立て、関心を深めてもらうことが目的だ。

**自由な発想
活動を通して広がる輪**

他にも、子どもの居場所づくりや体験活動、世代間交流の場づくり等にも取り組んでいる。橋浦さんは、「自由な発想で地域の皆さんと繋がり、古館に住んで良かったと思われる地域づくりをしていきたい。活動を通じてどんどん輪が広がっていくといいなと思う。」と語る。様々な形で関わっている地域外の会員も多い。今後も前向きな活動が多くの人を古館地区につなげていこう。

NPO法人虹の架け橋

地域とつながり 人と人をつなげたい



発表会(さんざ踊り)の様子

子育てと健康づくり、イベント活動支援で地域の盛り上げ

防災訓練を行い、火災予防の推進普及などを行う法人として平成17年設立。活動の幅を広げ、地域を盛り上げたいと考え、昨年、現在の名称に変更した。メンバーは、学生や社会人など、幅広い年齢層が集まっている。

「地域の子どもたちと、めいづばい関わる活動をしたい。」と畠山さん。現在は、学習・運動・遊びの場のサポート、健康づくりサポート、ヨサコイや郷土芸能の演出やサポートなどの活動を行っている。雫石町を拠点とするヨサコイチームの代表でもある原田さんは「ずっと義理と人情を大事にし、ヨサコイで人とのつながりの大切さも学んだ。やりたいと思うことをみんなで行って、地域を盛り上げたい。」と語る。

コロナ禍で制限がある中、今年度は文化庁の伝統文化親子教室事業と



発表会に向けた練習の様子

して「雫石よしやれさんざ踊り親子教室」を開催。町外からも参加があり、伝統芸能・文化の入り口として、パレード用の「よしやれ」と「さんざ踊り」を教えた。小・中学生の親子の他にも、郷土芸能活動が盛んな県立雫石高校生徒の生徒も参加。30名ほどが地域の講師から踊りを教わった。7月から練習を始め、11月には雫石町中央公民館で、練習成果を披露する発表会を開催した。

楽しく教えながら教えられるが架け橋となる



畠山理事と原田理事長

コロナ禍による制限がなくなったら、これまで続けてきた、子どもたちの夏休みに、勉強や体力づくりを指導する寺子屋活動や、ワークショップ、イベント等を実施したいと考えている。今年中止となったが、地域の大きな祭りである「雫石よしやれ祭」に、来年は参加したいとのこと。「踊りをはじめ何かを教えることは自分たちも学んでいる。出会い、人とのつながりに感謝して、より視野を広げ、きっかけ、入り口となつて、つなげる活動をこれからも進めていきたい。」と原田さんは語る。地域を「明るい未来」につなぐ「架け橋」の役割は大きくなる。

いわてレインボーマーチ

マイノリティが堂々と生きられる社会へ
プライドパレードで呼びかける



IWATE RAINBOW MARCH 1stの様子

いわてレインボーマーチは盛岡市を拠点に、LGBTQ+をはじめ様々な社会的マイノリティのエンパワメントを推進するために活動している。現在のメンバーは10名。年齢層も幅広く、性的マイノリティの人とその理解者(アライ)当事者に寄り添う人)が参加している。

今年6月から共同代表となり、自身もXジェンダー(男性や女性といった枠に固定されない性自認)である氷心かふかさんに活動についてお話を伺った。

多様な生き方のために プライドパレード実施

いわてレインボーマーチは平成30年2月、性的マイノリティとして社会に生きづらさを感じた前代表者が立ち上げた。

その年の9月には性的マイノリティも暮らしやすい多様な社会の実現を訴えるパレードイベントとして、プライドパレード「IWATE RAINBOW MARCH 1st」を実施。「ありのままの自分にプライドを持つ」というメッセージが込められた。当日は県内外からの参加者約160名がもりおか歴史博物館からスタート。盛岡城跡公園を目指し虹色の旗を振りながら市内を歩いた。翌年には第2回の開催を目指して準備していたが、台風の影響により中止。交流会開催に切り替え参加者との交流を深めた。

コロナ禍である今年にはオンラインイベントを企画し、メッセージ動画やトークセッション動画の配信を行った。来年以降に、再びプライドパレードの開催を予定している。氷心さんは「LGBTQ+以外の人々も含め、多様な生き方を認め合える環境づくりに繋がってほしい。」と話す。

近くの人にやさしく できる社会に

メンバーの経験から、学生時代に自分の性の悩みを相談できる人が身近にいないこと、性の多様性を知ることが不安の解消につながるのではと考え、当事者や理解者の交流会、講演等での啓発活動にも取り組んでいる。今後の活動の軸としてユース世代へのアプローチや交流会の実施、そして教育関係者や保護者への理解を広めるための講演会の実施も検討している。氷心さんは「その人の『好き』を認めてあげてほしい。『嫌い』『苦手』も誰しもあるもの。押し付けたり排除したりせず、せめて自分の近くに



氷心かふか代表

る人達にだけでも優しくできる社会であってほしい。」と語る。自分と他者を等しく尊重することが、個々の多様性を認め合う社会に繋がるだろう。設立時からのスローガン「MARCH THIS WAY (胸をはって堂々と自分らしく生きる)」を掲げて今後も活動を続けていく。



第2回のパレードは中止となったが交流会を開催した

◎LGBTQ+

性的マイノリティの人たちを表す言葉。レズビアン:女性の同性愛者、ゲイ:男性の同性愛者、バイセクシャル:自分の性別を問わず二つ以上の性に惹かれる性自認、トランスジェンダー:身体的性別と性自認が異なる人の総称、クエスチョニング(クィア):自身の性がわからない人の総称、+(プラス):上記に当てはまらない多様な性のあり方。

滝沢市 元村東自治会

顔の見える自治会へ 助け合いと交流の活動を重ねる



弁当配達の様子

お弁当配達から 助け合いと見守りを

「昼食サービス」は、一人暮らしの高齢者や身体障がい者の方に弁当を届ける活動だ。旧元村自治会婦人部のサロン活動「お茶つこの会」から提案され、現在は元村東自治会の取り組みとなった。

月に2回、毎回15名程の人に福祉活動部が作った弁当を届けるほか、毎月のサロン活動にも昼食を提供している。利用者からの料金は徴収せず、元村東自治会の福祉活動部経費と、滝沢市社会福祉協議会「地域福祉ゆいづくり事業」の助成金や地元農家からの食材提供等で賄われる。事前に対象の家庭に民生児童委員が訪問し、来月の昼食サービスの利用確認を行う。この訪問や当日の配達が見守り活動の一助にもなっているという。

井上会長は「地域のことは地域で助け合うものだ」と話す。見守りが必要な方について「支えあいマップ」を作成し、役員間で情報を共有。近くを通るときや散歩の際にも様子を見るように気にかけている。

また、自治会内の交流にも取り



ふれあいウォークラリー

組む。9月の敬老会「感謝のつどい」では地域内の高齢者を集め、おふろまいや子どもたちの踊りの披露などが行われる。コロナ禍で集まることができない時期は、記念品の贈呈に切り替え、子どもたちからの手紙を添える等、世代間交流の機会を絶やさぬ工夫をしている。

さらに毎年10月には「ふれあいウォークラリー」を開催。地域のチェックポイントを巡り、その場所にちなんだクイズに解答しながら、参加チームは設定時間内のゴールを目指す。地域のことを親子で学べるように、地名等を絡めた内容を毎年考えている。終了後の昼食やゲーム等でも盛り上がるそうだ。

自治会は 家族のようなもの 困っている方をお手伝い

元村地域は昭和50年代頃には市街化調整区域であったため農家が多く、近所に親しい人や親戚が多い場所だったという。そうした背景から「元村東自治会はひとつの家族のようなもの。家族の中で困っている人がいればお手伝いをしてあげたい。」と井上会長。

元村地域には助け合いの精神が根付いている。昼食サービスや普段の見守り活動は、今後地域にとってもかせない取り組みになるだろう。



井上靖宏 会長

あなたのまちの社会福祉協議会やボランティアセンターについて

季節も師走に入り、寒さも本格的になる時季となりました。みなさん、いかがお過ごしでしょうか？
今回は、あなたのまちの社会福祉協議会(通称「社協」)やボランティアセンターについてご紹介します。ボランティアに関するご相談は、ぜひお近くの社協へ！

★市町村社会福祉協議会について

【市町村社会福祉協議会とは?】

市町村に1か所設置が認められている民間組織です。地域に暮らす皆様をはじめ、民生委員・児童委員、社会福祉関係者、保健・医療・教育などの関係機関の参加・協力を得て、誰もが住み慣れたまちで安心して生活することができるよう取組を行っています。

【具体的にはどのようなことを行っているの?】

高齢者や障がい者、子育て中の親子などが気軽に集える「サロン活動」を進めているほか、ボランティア活動に関する相談や活動先の紹介、小中高校における福祉教育の支援など、地域の福祉活動の拠点としての役割を果たしています。

また、生活福祉資金の貸付や、介護保険サービスの実施といった各種の福祉サービスや相談活動も行っています。

社会福祉に関するご相談、ご質問は最寄りの市町村社会福祉協議会にお気軽にお寄せください。

★ボランティアセンターについて

ボランティア活動の窓口については、様々な機関、団体等でも対応している場合がありますが、社協の中にはボランティアセンターがあります。(※注)

ボランティアセンターでは、ボランティア活動への住民の参加を広く呼びかけるとともに、その活動を推進するために様々な支援を行っています。

【ボランティアセンターの主な役割】

*あくまでも一例です。

- ・ボランティア活動希望者、ボランティアを必要とする人の相談
ボランティア活動の相談窓口として、活動先の紹介、ボランティアを求める人とのパイプ役をしています。
- ・ボランティアグループの育成と援助
助成金公募情報やイベント・講座の開催情報案内など各種ボランティアグループの活動をサポートしています。
- ・ボランティア活動に関する情報提供
地域で行われるボランティア活動などの情報提供をしています。
- ・ボランティア養成講座、研修会の開催
手話教室や点字教室など初心者向けの養成講座や団体向けのリーダー研修などを開催し、ボランティア活動の普及に努めています。

(※注)社協によっては、ボランティアセンターという看板を掲げていないところもありますが、そうした社協でもボランティア活動に関する相談を受付けています。



【お問合せ先】 岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター
TEL:019-637-4483
FAX:019-637-7592
「ずっぱりボランティアいわて」
URL <http://iwate-volunteer.jp/>

★体験期間もあわずか！ボランティア体験inいわて

岩手県内各地で、子どもから大人まで誰でも参加できるボランティア活動を集めました。主に高齢者、障がい者、子ども、各種イベントなどに関するボランティアをご紹介します。お好きな方法で、ボランティアを探してみてください。

①パソコン・スマホから検索する方法

体験プログラム検索ができる画面が表示されます。

②最寄りの社会福祉協議会を訪ねる方法 社会福祉協議会の窓口「ボランティア体験inいわてに参加したい」とご相談ください。

目指そう！認定NPO法人

【認定NPO法人とは】

NPO法人のうち、パブリック・サポート・テスト(※)など、一定の基準を満たしているとして所轄庁(都道府県)の認定を受けたNPO法人。認定NPO法人として認定されると、寄附者に対する税制上の優遇措置等があるため、企業や個人から寄附金が集めやすくなります。

(※) パブリック・サポート・テスト…広く市民から支援を受けているかどうか判定するもの。次の3つから1つ選択して判定を受ける。

- ①「相対値基準」：経常収入における寄付金の割合が1/5以上。
- ②「絶対値基準」：各事業年度の寄付者数が100人以上。
- ③「条例個別指定」：都道府県・市町村の条例により、個人住民税の寄附金税額控除の対象となる法人として指定を受けている。

■ 認定NPO法人制度に関する相談窓口

岩手県環境生活部 若者女性協働推進室 認定NPO専門員 TEL:019-629-5199 FAX:019-629-5354

企業と県の連携協働の取組紹介～ネーミングライツ～

岩手県では、企業との連携により、より良い県民サービスを提供するため、ネーミングライツ事業に取り組んでいます。

【ネーミングライツ事業とは?】

県有施設に愛称を付与する対価として、ネーミングライツ料を得て、施設の維持管理及び環境美化に役立て、県民の利便向上をはかる取組のこと。スポンサー企業にとっては、県有施設の名称に企業名が使用されることにより、企業の地域貢献のイメージアップ効果や広告効果が期待されます。

施設の維持管理にお金がかかる

県有施設へ愛称を付与する権利

ネーミングライツ料

企業の知名度を上げたい

ネーミングライツに取り組んでいる企業の声

株式会社小田島組
アイーナ7階ホール
愛称
小田島組☆ほ～る
期間：H28.4.1～
(岩手県初のネーミングライツ事業)

株式会社小田島組は、公共事業を中心とした建設業を主な事業としています。現場写真整理サービス「カエレル」をはじめ徹底的なIT化など、既存の枠にとらわれない取り組みで生産性の向上を目指しています。

県民のみなさん、特に学生の採用において認知度が上がってきていると感じています。業界・地域の枠を超えて会社を発信することができ、多様な人が入ってくことで、会社の魅力アップにもつながっていると思います。

株式会社ツガワ
岩手産業文化センター
愛称
ツガワ未来館アピオ
期間：R3.10.1～

神奈川県で板金加工業をスタートした当社が、北上市に工場を移転して約40年経過し、その後二戸市、花巻市と製造拠点を増設し、現在は各種機械製品の設計開発から完成品製造の一貫生産を岩手県を中心に行っています。

今回のネーミングライツの取得により、県民の皆様と共に岩手県の発展に微力ながら貢献したいと考えております。

シリーズ 新しい生活様式とNPO活動
第3回 オンラインの事業への活用

新型コロナウイルス感染症により、NPO活動もこれまでのような対面中心の活動からオンラインを併用した活動へとシフトしてきています。第3回では講座やセミナーにオンラインを取り入れて開催する際に気を付けることをご紹介いたします。参加者の環境と、オンラインに適した活動なのかを確認し上手く活動に取り入れましょう。



講座やセミナーをオンラインを活用して開催する

事前の準備



事前の打ち合わせや講師との打ち合わせには、オンライン会議ツール(Zoom等)を使用すると、講師が遠方の場合でも相手の都合に合わせて話し合いが出来ます。
ツールによっては使用時間に制限があるので、話し合いたい内容を事前にしっかりと考え、**簡潔で明瞭な打ち合わせ**になるように気を付けましょう。

講座・セミナーの開催

講座やセミナーを開催する際、会場の広さや会場までの距離の都合で参加者は限られていましたが、オンラインツールを使用することで、**全国からの参加を募る事ができます**。また、会場設営等の手間がかからないこともメリットと言えます。一方で、通信環境によって映像や音声不安定になる場合がある事や、参加者の様子がわかりにくく**講師が雰囲気を読みづらい、参加者の集中が途切れやすい**等のデメリットもあることから、オンラインと対面で同時に講座やセミナーを開催する場合もあります。
オンラインでの開催にあたってはウェビナー(webセミナー)機能を持つZoom(ホストは有料プランへの加入が必要)等のツールが使用されることが多いでしょう。画面共有やチャット、レコーディング機能の他、ホワイトボードやブレイクアウトルーム(グループワーク等のため少人数に分ける機能)といった参加型の機能を備えているオンラインツールもありますので、**目的と内容にあわせて、うまく機能を活用し**実りある講座やセミナーを開催しましょう。



テレワークマネージャー相談事業 (総務省)

総務省では、テレワークの知見、ノウハウ等を有する専門家(テレワークマネージャー)が無料でテレワーク導入に関するアドバイス等を行う「テレワークマネージャー相談事業」を実施しています。
支援内容
テレワークによる効果の説明、テレワークに適したシステム(在宅勤務などを行うためのICT機器、システム)や情報セキュリティ、勤怠労務管理、その他テレワーク全般に関する情報提供・相談、導入に向けての支援等
・ 支援の方法:WEB会議・電話または派遣訪問
・ 支援上限回数:なし(派遣訪問は一企業・団体あたり3回まで)
・ 一回当たり支援時間:最大6時間まで ※1回1~2時間程度、3回前後実施が目安です。

対象
① 民間企業(株式会社等又は特定非営利活動法人)
② 都道府県・市町村等の地方公共団体及びそれに準ずる団体等
コンサルティング費用 無料
※ ご利用時にかかる電話料金や通信料は相談希望者様のご負担となります。
相談実施期間
令和4年3月11日(金)まで
※諸々の状況を鑑みて期間終了を前倒しする可能性があります。
URL <https://teleworkmanager.go.jp/>

岩手県のホームページではコロナウイルス感染症に関する各支援や相談先を公開しています。ご確認ください。
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/index.html>

オンライン導入・活用セミナーの開催

県内NPO法人等の活動へのオンライン活用を促進するため、県内の各団体や市町村と協力し、オンラインツールの導入や活用を学ぶセミナーを開催します。内容は開催地域により異なりますので、詳細は下記団体の問い合わせ先からご確認ください。(参加費無料)

	開催日	時間	会場	講師	申込・問い合わせ先
県北	第1回 1月28日(金)	13:30~ 15:00	二戸市 シビックセンター	田中裕也氏 (岩手県産業支援アドバイザー)	NPO法人いわてNPOフォーラム21 E-mail:inf21-info@iwate-npo.net TEL:019-605-8271 URL: http://www.iwate-npo.net/
	第2回 2月11日(金)	13:30~ 15:00			
県央	第1回 1月23日(日)	9:30~ 11:30	滝沢市 ビッグルーフ滝沢	田中裕也氏 (岩手県産業支援アドバイザー)	NPO法人まちサポ零石 E-mail:koso_sapo@yahoo.co.jp TEL:019-909-0193 URL: https://shizukucan.wixsite.com/machisaposhizukuishi
	第2回 2月6日(日)	9:30~ 11:30			
県南	第2回 1月8日(土)	13:30~ 15:30	オンライン	三浦まり江氏 (NPO法人陸前高田まちづくり協働センター)	奥州市協働まちづくり部地域づくり推進課市民活動係 E-mail:chiikidukuri@city.oshu.iwate.jp TEL:0197-34-1618
沿岸①	第1回 1月19日(水)	13:30~ 15:00	陸前高田市 ほんまるの家	鹿野順一氏 (NPO法人アットマーク リアスNPOサポートセンター)	NPO法人陸前高田まちづくり協働センター E-mail:rtkyodo@gmail.com TEL:0192-47-4776 URL: https://rtmachikyodo.jimdo.com/
	第2回 2月9日(水)	13:30~ 15:00	オンライン		
沿岸②	第1回 1月26日(水)	13:30~ 15:00	釜石市 みんなの家	三浦まり江氏 (NPO法人陸前高田まちづくり協働センター)	NPO法人アットマークリアスNPO サポートセンター TEL:0193-27-8400 URL: https://rias-iwate.net/
	第2回 2月16日(水)	13:30~ 15:00	オンライン		

※お近くの会場へご参加ください。各会場開催についての詳細は、NPO活動交流センターのホームページに掲載しますのでご確認ください。

NPO活動交流センターの基礎講座とNPO・ボランティア活動
なんでも！相談所の開催



NPO基礎講座
■日時 1月26日(水)「NPO法人 会計基準」
2月24日(木)「事業年度終了後の手続き」
いずれも ①14:00~15:30 ②19:00~20:30
■場所 アイーナ6F 団体活動室1 **■定員** 各回5名 ※終了後個別相談あり
■講師 ①久保NPO専門員 ②岩見副センター長 ※内容・講師の変更がある場合があります。ご了承願います。
NPO・ボランティア活動なんでも！相談所(予約制)
■日時 1月11日(火)／2月8日(火)／3月8日(火)／3月22日(火)
いずれも ①14:00~ ②15:00~ ③16:00~ ④18:30~ ⑤19:30~
■場所 アイーナ6F 団体活動室1 ※予約制による相談会を開催します。
1枠1時間です。ご希望の時間にご予約下さい。 **■相談員** 岩見副センター長
■申し込み・問い合わせ先 NPO活動交流センター
TEL:019-606-1760 E-mail:n-katsu@aiina.jp URL:www.aiinanpo.org/

助成金情報

これから申請できる助成金情報です。
詳細については、実施団体に直接連絡するかホームページをご確認ください。



令和4(2022)年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」[支援団体/一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団]

対象団体／ 営利を目的としない民間団体(特定非営利活動法人、法人化されていない任意の団体など)。
団体として、代表責任者が明確であること、意思決定のしくみが確立されていること、予算決算を含む会計処理が適切に行われていること。

対象事業／今日の人口減少社会、少子高齢化社会等を背景にした住まいとコミュニティに関する課題に取り組む市民の自発的な地域づくり・住まいづくり活動で、地域住民が主体的に関わっている次に掲げるもの。

- ・社会のニーズに対応した地域活動
- ・地域環境の保全と向上
- ・地域コミュニティの創造・活性化
- ・安心・安全に暮らせる地域の実現
- ・その他、豊かな住環境の実現に繋がる活動

- 申込期限／令和4年1月12日(水)必着
- 助成金額／120万円以内 ※コミュニティ活動助成10件程度、住まい活動助成10件程度の合計で20件程度を予定
- 参考URL／<http://www.hc-zaidan.or.jp/program.html>

令和4年度「地域の伝統文化助成」[支援団体/(公財)明治安田クオリティオブライフ文化財団]

助成対象／(1) 地域の民俗芸能への助成
地域の民俗芸能の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体を対象とする。
(2) 地域の民俗技術への助成
地域の民俗技術の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体を対象とする。
※申込に際しては、市町村教育委員会、公立博物館、学識経験者等からの推薦ならびに各都道府県教育委員会または知事部局の文化関係所管課の推薦が必要。

- 申込期限／令和4年1月31日(月)※当日消印有効
- 助成金額／「民俗芸能」は1件につき70万円を、「民俗技術」は1件につき40万円を、それぞれ限度とします。
- 参考URL/<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp/culture/guide/>

社会貢献基金助成[支援団体/(一財)冠婚葬祭文化復興財団]

対象団体／ 以下の条件を満たす、非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループも対象)及び又は大学、研究機関(個人も可)で、今回募集する助成対象事業の趣旨に合致する事業を行おうとしている団体等。(個人資格による申請については、研究助成分野以外は対象外)

- (1)定款に準ずる規約を有し、自ら経理し、監査することができる会計機能を有すること。
- (2)団体等の主たる事務所(又は準ずる所)を日本国内に有すること。
- (3)団体等の意志を決定し、今回申請する活動を実施する体制が確立していること。
- (4)団体の活動実績(今回申請する活動又は類似した活動)を過去3年以上有し、今回申請する活動のニーズが高く今後も継続性が期待できること。
- (5)申請する事業の実施のための自己資金を保有すること(他の民間団体等からの助成を除く)。

対象事業／(1)研究助成事業 (2)高齢者福祉事業 (3)障害者福祉事業 (4)児童福祉事業 (5)環境・文化財保全事業 (6)地域つながり事業 (7)冠婚葬祭継承事業

- 申込期限／令和4年1月31日(月) ※必着
- 助成金額／1件あたりの上限額：200万円 ※但し、研究助成事業においては、100万円
- 参考URL／<http://www.ceremony-culture.jp/social/service/fund/content01/>

県民活動交流センター 登録団体活動紹介



モウリコウキ代表



体験型謎解きプログラムの様子

PLELL

PLELL (プレル) は盛岡市を拠点に、岩手県内で体験型謎解きプログラムの公演をする任意団体だ。団体名はplay well (うまく遊べ) という言葉を省略したもの。モウリコウキ代表は「生きていて楽しい社会のためには“遊ぶ”ことが重要だと思う。」と話す。

体験型謎解きプログラムは、会場内で言葉遊びや暗号、パズル等を順番に解いていき、最終的な解答を導き出す推理ゲームだ。会場によって、会場内を周遊するものや限られたスペースの中で行うもの等様々な方法で実施される。スタッフと協力しながら、モウリさん自身が謎解きを作っている。1回のプログラムを作るのに半年かかることもあるという。これまでに、盛岡市内の施設や沿岸地域で公演も行った。今後はイベントを作る体験の提供をしてみたいと考えている。

「謎解きは誰でも楽しめるもの。レクリエーションにも最適。」とモウリさん。今後の体験型謎解きプログラム開催についてはPLELLのTwitter(https://twitter.com/PLELL_) にて告知される予定だ。

盛岡夜回りグループ-step-

盛岡夜回りグループ-step-は、盛岡市内で路上生活者支援を行う団体だ。盛岡駅周辺を中心に市内で夜回りを実施。プライバシーに配慮しながら路上生活者とみられる方からお話を聞き、困っていることを一緒に考えながら各支援先へとつないでいる。夜回りから支援がつながり、住居を得た方もいるそうだ。新型コロナウイルス流行により夜回りできない状況が続いていたが、失業者の増加等、社会状況の悪化もあり時期を見て活動再開を検討している。

活動を始めたのは2011年6月から。当時に比べて盛岡市内の路上生活者の数は減り、声をかける機会も少なくなった。一方で、元路上生活者のアフターフォローにも気を配っている。後藤敦博代表は「困ったときに助け合えるようなつながりを作りたい。」と話す。声をかけた方の中には現在も連絡を取り合う人があるという。活動について興味のある方は、盛岡夜回りグループ-step-の代表メール(morioka.yomawari@gmail.com)まで。



後藤敦博代表



夜回りの様子

あなたのまちの市民活動支援のみなもと

NPO法人いわて連携復興センター



◎DATA…〒024-0061

北上市大通り1丁目3番1号クレオンタワー7階

HP: <http://www.ifc.jp/>

TEL: 0197-72-6200 E-mail: info@ifc.jp

復興・防災の中間支援

NPO法人いわて連携復興センターは、岩手県内の中間支援NPOで組織された「いわてNPO中間支援ネットワーク」を母体として、東日本大震災津波直後の平成23年4月に設立。支援を被災地域へつなぐ活動をスタートし、同年9月に法人格を取得した。

設立後は、復興・被災者支援について県との情報交換やホームページでの情報発信、外部団体との仮説住宅調査等を実施。また、県外からの支援を被災地で活動する団体につなぐ役割も担った。復興・被災者支援を行う団体間で顔の見える関係をづくり円滑な支援へとつなげた。

現在は、震災復興に携わる地域の団体を支援するため、「被災者支援コーディネーター事業」を実施している。沿岸被災地域に各エリアの担当やテーマを持ったコーディネーターを配置し、団体へ訪問。情報提供など団体のニーズに即した支援をしている。令和元年からは「いわてソーシャルセクター協議会」の構成団体として、NPO活動交流センター運営事業にも参画。

沿岸地域の団体支援に加えて、県域の団体支援にも取り組んでいる。

東日本大震災津波時の対応の課題から、災害への備えとして平時からの連携、協働の支援体制構築も行う。いわて連携復興センターが事務局を務める「いわてNPO災害支援ネットワーク」は、平成28年8月の台風10号災害をうけ、翌9月に県内複数のNPOにより設立された。普段から情報共有や研修等をつなぐ、県内の災害時に効果的な支援を行う体制を築いている。さらに、NPO、行政、社会福祉協議会との三者連携による防災の体制づくりも目指して活動に取り組んでいる。

課題解決に取り組むNPOを支援

東日本大震災津波に起因して、被災地での地域課題は大きく複雑になったと大吹哲也事務局長。「地域の課題解決を担う行政の仕事は増え、NPOの役割がさらに必要になる。」と語る。

岩手県域や被災地でのNPO活動を支援する中間支援組織として、いわて連携復興センターの今後の活動に期待がかかる。

編集後記

今号の情報誌パインは県央地域の4団体を紹介しました。取材先それぞれに伝承文化や地域性等知らないことが沢山あり非常に勉強になりました。いわてレインボーマーチの取材では「どんな人たちもその人らしさ」であるという多様性の話をお聞きしました。相手と向き合い、相手を知る事が「その人らしさ」を認め合える社会につながるのではないかと思います。(H・M)

NPO活動交流センターのHPでは、様々なイベント情報や助成金情報を掲載しています。

みなさまからの市民活動情報や「パイン」への取材依頼もお寄せください。

URL: <https://www.aiinanpo.org/> E-mail: n-katsu@aiina.jp

アイーナ N活

検索

Twitter フォローお願いします!!!
<https://twitter.com/aiinaNPO>

Facebook いいねをお願いします!!!
<https://www.facebook.com/aiinaNPO>